

報道関係者各位

2018年10月10日

2018年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」 建設・住宅・不動産部門で8回連続9回目の1位を獲得

大東建託株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:熊切直美)は、公益社団法人日本証券アナリスト協会(以下、アナリスト協会)が実施する、2018年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定※」の建設・住宅・不動産部門において、8回連続9回目となる第1位を獲得しました。

※公益社団法人日本証券アナリスト協会が実施する制度で、企業のディスクロージャーの促進・向上を目的に1995年から継続。証券アナリストの立場から、企業のディスクロージャーの質、量、タイミング等の優劣を判断するための客観的な評価基準を策定し、これをもとに優良企業を選定。

■評価ポイント概要(選定結果通知資料より抜粋)

1)経営陣のIR姿勢等(2位)

- 経営陣が四半期毎に説明会に出席し、アナリスト・投資家と対話する機会を設け、市場にメッセージを発信している
- IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができる
- 情報開示を後退させることなく、より積極的に行っている

2)説明会等(1位)

- 説明会、短信および説明会資料等において、実績および計画を明記し、理解を深めるような十分な説明がされている
- 質疑に対する会社側の回答が十分満足できる
- 部門別の受注、利益率、売上げ見通し等が十分開示され、詳細で充実した説明会資料となっている
- 説明会資料にタイムリーで有用な話題が掲載されている

3)フェア・ディスクロージャー(1位)

- 投資家にとって重要と判断される事項を迅速に開示している
- 説明会資料やデータが英語でも公平かつタイムリーに入手が可能である
- 説明会の音声配信、質疑応答要旨の開示により、十分な期間の視聴等が可能である
- 月次受注等の開示が充実している

4)コーポレート・ガバナンス関連(1位)

- 中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策が十分説明されている
- 資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されている

5)自主的情報開示(2位)

- 賃貸住宅見学会等が開催されている
- マネジメント等の発言内容等が迅速かつ公平に開示されている

ディスクロージャー
2018年度 優良企業



日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

ディスクロージャー優良企業に贈られる
「優良企業ロゴマーク」

(参考)大東建託のこれまでの順位

年度	順位
2018年度	第1位
2017年度	第1位
2015年度	第1位
2014年度	第1位
2013年度	第1位
2012年度	第1位
2010年度	第1位
2009年度	第1位
2008年度	第2位
2007年度	第3位
2006年度	第1位

※2011年度および2016年度は、建設・住宅・不動産部門での評価は休止

■表彰式の開催

本件に関する表彰式が、10月12日(金)17:30より経団連会館5階にて開催されます。

詳細は、アナリスト協会へお問い合わせください。(http://www.saa.or.jp/standards/disclosure/index.html)

<本件に関するお問い合わせ>

大東建託株式会社 広報部 広報CSR課 TEL:03-6718-9174